
すべらない小説 01 (ラーメン屋さん)

ミジンコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

すべらない小説 01 (ラーメン屋さん)

【Nコード】

N3185F

【作者名】

ミジンコ

【あらすじ】

一気に読めるすべらない小説。経験と実績が産んだ奇跡のエピソード!!!1分で読みきれぬ疾走間と読みやすさが魅力!!!

友達と二人で近所のラーメン屋さんに出かけた。店内に入ると、元気なおばさんが注文を取りに来た。

「あああ〜ら、お兄さあ〜ん。いらっしやあ〜い!!何にしますかあ!???」

高い声で元気にしゃべる気さくで明るいおばさん。

「ええつとあ〜・・・じゃあ ラーメン2つ お願い!」

自分がそう言つとおばさんもすぐに・・・

「はあ〜い!わかりました〜。ちょっとお待ちくださいね〜」

と明るい笑顔で答えた。

数分後、そのおばさんが両手にラーメン2つを持ってさっきと変わらないやさしい笑顔でこっちに向かって歩いてきた。

「は〜い。お待ちどうさま〜!ラーメン2つね〜!!」

持っているラーメンをよくよく見てみると、なんとしつかりがっほりおばさんの親指がスープの中に浸かってしまっているではないか!!

友達と2人で聞こえないように小声でしゃべる・・・

「おい・・・見るよあのおばさん・・・思いつきり親指、ラーメンにインしちゃってるよ・・・どーするう〜?」

最初は、言わないでおいてあげようとも思ったがこれもまた商売。逆にそのおばさんのために思いやさしめな普通の言い方でその指の注意をしてあげた。

「ちょっとお〜おばさんさあ〜・・・それ・・・ラーメンに親指が入ってるよ!」

それを聞いたおばさんは、笑顔でさつきより更に一層元気な高い声でこう答えた。

「はっはっはあ!!だあ〜いじよおぶよ!!こんな熱くないから
(笑顔)!!!!!!」

・・・・・・・・・・・・・・・・つて

てめええの心配はしてねえ〜よおおお!!!!!!!!!!
衛生上の問題でしょおおお!!!!!!!!!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3185f/>

すべらない小説 01 （ラーメン屋さん）

2010年10月17日08時09分発行